

週日の説教

金 大烈 神父 2011年1月11日(火)

《「権威」それは愛に基づくもの》

主の平和

何ヶ月か前に申し上げた内容と似ているかと思いますが、皆様は、権威は必要だと思いますか。必要ではないと思いますか？「権威！」

大体私達が生きて行く上で、権威がある人は必要でしょうか。権威は相応しくない。相手とちょっと距離が出来てしまうので、権威から解放された方がいいと思われませんか？

皆様、言葉にも少し違いがあると、私が申し上げたことを覚えていらっしゃるでしょうか。「権威主義」と「権威がある」こととはまったく違います。

では、権威主義とは何でしょうか。それは力の無い者が、どうかして力をみせようとして、仮面をかぶって権威を立たせようとするものを「権威主義」と言います。それは暴力です。力によって作ろうとするのが権威主義です。

「権威がある！」。今日の福音（マルコ1・21-28）でイエス様の教えを『権威ある新しい教えだ』と表現しています。これはどういうことでしょうか。簡単に考えてみましょう。家族を見てみますと、どの国でも昔から父親はある意味でちょっと重みがあり、母親はある意味で子供たちにあれやこれやと口うるさく関わるのが一般的です。面白いのは、子供達は大体が父親の方を怖がります。母親が叱っても、あまりにも口数が多いので「はい、はい、分りました。」と答えて、全然言うことを聞こうとしないのが子どもの心の働きです。

例えば、父親の方は子供が遅く帰って来ても「ちょっと遅かったね。」とひと言で終わります。しかし母親は「何故こんなに遅くなったの」とか、「今まで誰と一緒にいたの」とか、このような言い方をしてしまいます。これでは絶対権威的ではありません。人の心を動かす力ある言葉は、言葉数が多ければいいというわけではありませんね。簡単でも、その中には明確なメッセージが隠れていたら、その言葉には力があります。それを「権威」と言います。ですからこのような意味では、私達は権威が必要かも知れません。

陰口ではなくて、告げ口でもなく、いつも必要なことを、ちゃんと自分の心を伝える簡単な言葉を選べれば、それは賢明な知恵ある生き方かも知れません。

親の立場では子供達が全然従おうとしなかったら、腹がたちますよね。正しいか正しくないかの問題ではなくて、拒んでいるその姿で腹が立って、自分の心をコントロール出来なくなってしまうのが、大体の母親の姿ではないでしょうか。子供は自分より正しい話をしていても、それを分かっているながらも腹が立つ。これが女性の特有的な働きであることは全世界共通でしょう。(笑)

皆様、子供たちが喧嘩する時を思い出して下さい。初めは正しいか正しくないかによって喧嘩にな

ります。自分が正しい、そして相手も自分が正しい。しかし言い合っているうちにどちらが正しいかはお互いに分かります。間違えた方も相手が正しいことを分かっています。けれども何か腹が立つ。そういう気持ちで私達が生き方しようとするれば毎日が大変です。

子供を例えて話しましたが、私達もイエス様にいい姿、何とかしてイエス様の真似をしようとする生き方が正しい姿だと思います。そう意味でもイエス様の話し方、言い方、「なぜイエス様の言葉には力があるのか」と、もう一度考えてみる量りが必要ではないかと思います。

さあ皆様、重すぎる言葉も問題です。子供達が明るく軽く話し合いたい、分かち合いたいと思っても、つい首に力が入って雰囲気崩してしまい、型苦しく話を終えてしまうお父様方も実際おられます。これからは、懸命にその状況に合わせて、何よりも“基準は愛であること”、その“愛によって作られるのが権威であること”を意識しながらこのミサを続けましょう。

ありがとうございました。